

地域支援体制整備事業

特別支援教育課

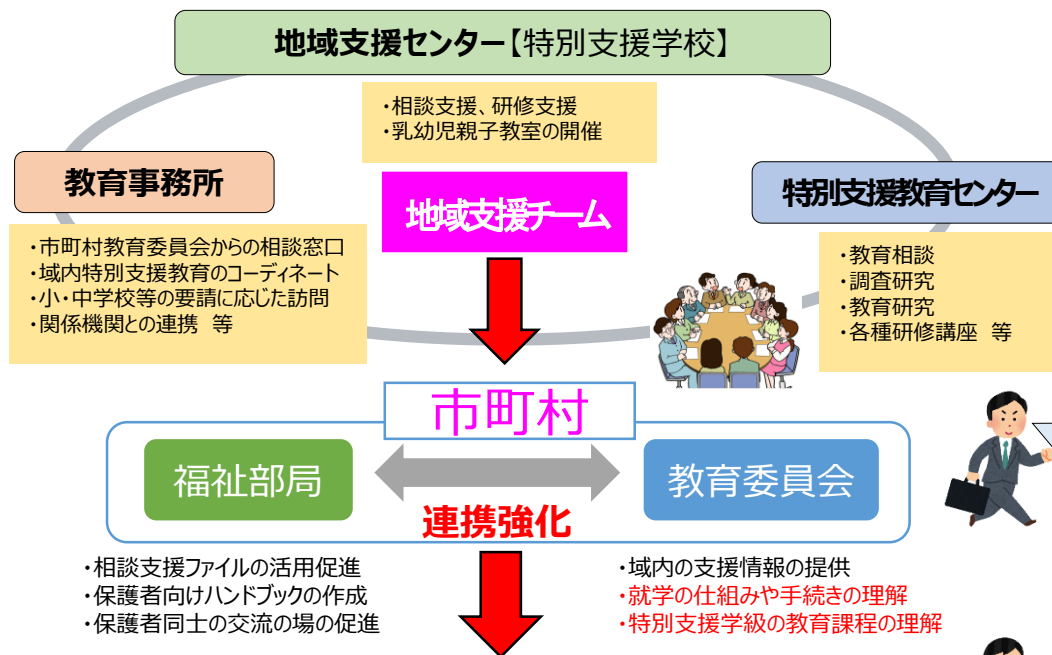
現状・課題

- H30より県立特別支援学校24校に『地域支援センター』を校内に位置付け、センター的機能として地域支援を進めている。
- R5は、出かける支援件数は839件、来校相談件数は1,557件、地域支援アドバイザー相談件数は503件で、合計2,899件であった。
- 視覚障がい、聴覚障がいの児童生徒は県内各地に在籍しており、乳幼児期からの適切な支援を必要としている。
- 人工呼吸器や胃ろう等を使用し、喀痰吸引や経管栄養等の医療的ケアを必要とする児童生徒も県内各地に在籍しており、地域で学ぶための支援体制を整えていくことが求められる。
- 入院している児童生徒への教育は保障されてきたが、学習の質や遠隔教育の推進、学校と病院との連携に課題がある。
- 知的障がいのある児童生徒の学びの場は整備されてきたが、就学の仕組みや手続き、教育課程の編成、個別の教育支援計画の活用、就労に課題がある。

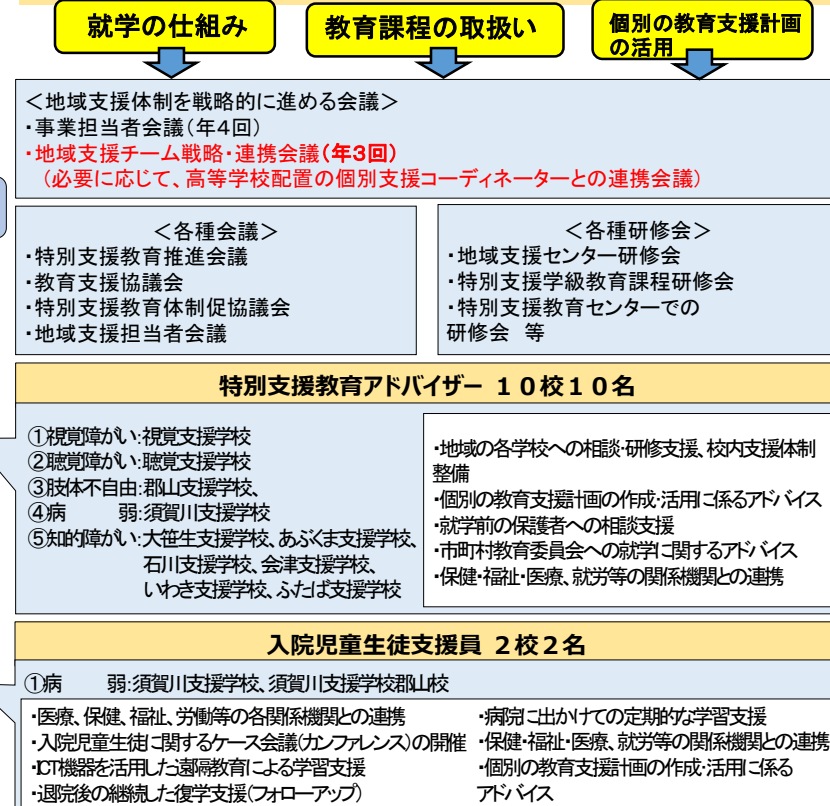
目標

- 児童生徒や保護者の就学への不安を支えとともに、卒業後まで支援をつないでいく。
- 特別支援教育に係る各市町村の支援体制の整備・充実を図る。

「地域支援体制」の連携図



「地域支援体制」を整備するための会議・研修会



「個別の教育支援計画」の作成・活用による切れ目のない支援

家庭

情報共有・連携強化

学校